

■ 事例報告

[守谷市北部地域包括支援センター]

K氏 [女性] 82歳

【病名】 糖尿病、高血圧、腎結石、すべり症、うつ病

※ 認知症の診断はなし

【家族背景】 夫婦2人暮らし/戸建て/都内に息子2人

息子2人との関係性良好だが、積極的に連絡をとらず
養父の介護経験から、息子達に迷惑をかけたくない

【生活状況】 家事は夫がほぼ出来る範囲で対応

- ・難聴にて、大きい声でも聞き返しあり意思疎通や会話が成立しづらい状況
- ・衣類の汚れが常に目立つ(エプロンの前面やズボンの臀部あたり)

【支援経過】 高齢者訪問

令和3年～ ・買物でレジを通らずに警察のお世話になる(複数回)

・同じ下着・ズボン着用、尿臭、便臭あり パットの使用拒否

→本人の基本的な日常生活の保持と、夫の介護負担軽減が必要と判断

夫から支援希望の声はあるが、サービス利用は希望せず定期訪問で様子確認

令和7年9月5日 夫より入電 夫自身の体調不良訴え→受診の勧め

8日 訪問するが不在 / 夕方 TEL し夫の体調確認と翌日の訪問約束

9日 高齢者訪問として訪問

[自宅の様子]

- ・室内の動線は確保されているもの、洗濯物が無造作に置かれている
換気されておらず、匂いがこもっている

[本人の状況]

- ・時間の感覚が薄れ、来客・電話の取次ぎは難しく、認知症状が進行
家事分担として洗い物を担当し、1日かけておこなう

[夫の様子]

- ・本人との意思疎通は難しいが、丁寧に対応している印象
- ・5日の体調不良の折、救急搬送されていたため[翌日精密検査予定]
- ・「自分に何かあった時、妻を一人にできないので心配」との相談有
→介護保険の申請を勧めると、本人も夫も承諾 ……介護保険代行申請

10日 夫がMRI検査により「脳梗塞」と診断 入院なく内服治療開始

11日 長男と連絡を取り、夫婦の状況を報告

・認定調査の立ち合いから息子2人を支援の輪に巻きこみ環境調整

【今後の方向性】

包括の介入をきっかけに息子とつながりサービスの利用につながっている。現在は、要介護1の認定がされ、訪問介護を週2回利用して在宅生活継続中。今後も、可能な限り夫婦での生活を継続できるように後方支援を行っていく。

